

はじめに

バイオロジー/生物学は、現在最も飛躍的に発展している学問であろう。数年前には、ヒトの個々のゲノムの塩基配列を簡単に決定するのは不可能だと思われていたが、今やほとんど可能になっている。ヒトに限らず、多くの生物のゲノムの塩基配列が決定されている。また、そのゲノムを改変する技術も進歩している。われわれ人類は、ついに人工の生物を作製することができる知識と技術を手に入れ始めている。それは魔法の杖を入手することに似ている。その杖は必ずや人類の願いをかなえてくれるであろう。本書は、その魔法の杖を入手するために、これから研究をスタートするあなたのために書かれた本である。“研究者とはどのような人種なのか”“研究をするために必要な準備とは”“研究するための基礎的知識と方法”について、主にバイオ研究に関して紹介している。

もしあなたが、大学院への進学について迷っているのであれば、進学することを勧めたい。生物が環境に適応するために多様性を維持しているのと同じように、研究が発展するためには、研究を行うスタイルや方法も多様であることが必要である。したがって、研究者は一様である必要はなく、さまざまなスタイルや方法を開発する必要がある。あなたに最も適した研究者のスタイルや研究の方法を開発すればよいのであり、それが、「オリジナリティーを出す」ということであり、自分で学習し、獲得してゆくものである。本書はその助けになるであろう。

本書は、2000年に出版した『無敵のバイオテクニカルシリーズ特別編 バイオ研究はじめの一步—ゼロから学ぶ基礎知識と実践的スキル』をもとに、大幅に書き加えたものである。前書は入門書とはいえ、さすがに12年も経過すると古くなるのは当然であり、むしろ改訂が遅くなってしまった。本書を執筆するにあたり、多くの方々のお言葉やアドバイスをいただき、またさまざまな本の内容を参考にさせていただいたが、本文中で完全に引用できていない場合もあるかもしれないが、ご容赦いただきたい。

本書は一人で執筆しているので、なかなか執筆のための時間がとれず諦めかけていたが、ここに出版できたのは羊土社編集部の安西志保、冨塚達也両氏の適切な調査とそれに基づくアドバイスのおかげである。特に、冨塚氏には細部にわたりサジェスションをいただき、おかげで本書が出版できたと言っても過言ではない。この紙面を借りて、御礼を申し上げる次第である。

本書についてのご意見、ご希望をいただければ幸いである。

2012年3月

野地澄晴